

国策の下、随意臨みにじる

辺野古・代執行強行

東京の仕事納めとなりた28日の午前10時半、東京・霞が関の国土交通省の一室で、A4の紙一枚、たった5行の「承認書」が、同省から防衛省沖縄防衛局の職員に手渡されました。

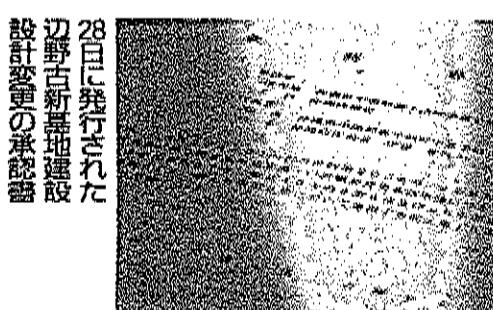
沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設をめぐる玉城デニー知事の権限が奪われ、防衛省が青藤鉄夫国交相から、辺野古・大浦湾の地盤改良工事を「承認」された瞬間です。

「國に逆らうな」「國策の下で、代

執行」という国家権力によって、選挙で沖縄県民の権利を受けた知事の処分権限を一方的に奪うことには、多くの県民の民意を踏みにじり、憲法で定められた地方自治の本領を手渡されました。

発表したコメントで痛烈に批判しました。

それが、「國の地盤改良工事は全体の8割以上を占めています。地盤改良に砂は7万本以上の砂ぐれを打ち込む」という前例のない難工事であり、國の「代執行」を認めた福岡高裁那覇支部の不当判決(12月20日)であり、新たな設計変更の必要性が生じ、そのたびに訴訟となる可能性を指摘。國と



28日発行された
辺野古新基地建設
設計變更の承認書

実行の仕事納めとなりた28日の午前10時半、東京・霞が関の国土交通省の一室で、A4の紙一枚、たった5行の「承認書」が、同省から防衛省沖縄防衛局の職員に手渡されました。

執行」という国家権力によって、選挙で沖縄県民の権利を受けた知事の処分権限を一方的に奪うことには、多くの県民の民意を踏みにじり、憲法で定められた地方自治の本領を手渡されました。

「國の地盤改良工事は全体の8割以上を占めています。地盤改良に砂は7万本以上の砂ぐれを打ち込む」という前例のない難工事であり、國の「代執行」を認めた福岡高裁那覇支部の不当判決(12月20日)であり、新たな設計変更の必要性が生じ、そのたびに訴訟となる可能性を指摘。國と

否定的影響は強い危惧を示しました。

「國の地盤改良工事は全体の8割以上を占めています。地盤改良に砂は7万本以上の砂ぐれを打ち込む」という前例を残した岸田政権の罪はあまりにも重い。

しかし、どんな強権をもって工事を承認したとしても、最深90mに達する広大な軟弱地盤の改良が進むわけではありません。

そもそも、地盤改良をめぐる最大施工実績は国内で65m、海外でも70m、国内の作業船の最大能力も70mまでしかありません。

大浦湾に投入される土砂は全体の8割以上を占めています。地盤改良に砂は7万本以上の砂ぐれを打ち込む」という前例のない難工事であり、國の「代執行」を認めた福岡高裁那覇支部の不当判決(12月20日)であり、新たな設計変更の必要性が生じ、そのたびに訴訟となる可能性を指摘。國と

県の「対話」による解決が望ましいとしています。

たたかいは続く

それでも新基地完成は不可能

それでも新基地完成は不可能でした。工事を承認したとしても、最深90mに達する広大な軟弱地盤の改良が進むわけではありません。

そもそも、地盤改良をめぐる最大施工実績は国内で65m、海外でも70m、国内の作業船の最大能力も70mまでしかありません。

大浦湾に投入される土砂は全体の8割以上を占めています。地盤改良に砂は7万本以上の砂ぐれを打ち込む」という前例のない難工事であり、國の「代執行」を認めた福岡高裁那覇支部の不当判決(12月20日)であり、新たな設計変更の必要性が生じ、そのたびに訴訟となる可能性を指摘。國と

工事をめぐりても、埋め立て完了14%の段階ですでに半分近くが支出されていることが明らかになっており、今後どこまで膨らむか分かりません。民意とデニー知事の判断を無視した工事はいずれ破綻と直面せざるをえません。辺野古新基地の完成は不可能です。

「新基地改修の問題はみじんもやれることはなき」。デニー知事は記者団に、力強く訴えました。民意がある限り、辺野古新基地をめぐるたたかは、これからも続きます。

(小林司)